

第5章

人々との交流による活力あるまちづくり

第1節 交流の推進

第2節 高野町の魅力発信

第1節 交流の推進

現況と課題

活力ある地域をつくるためには、地域内外の交流を活発化させる必要があります、そのためには観光客にとって「訪れたい魅力ある町」をつくり出すことが重要です。本町には世界遺産に登録された1200年にわたる歴史を有する真言密教の聖地「高野山」及び参詣道である「高野山町石道」や「熊野参詣道小辺路」を有しています。また、県内の国指定文化財436件のうち約半数の205件を有し、特に国宝にいたっては県内36件のうち2/3の23件が本町に所在するなど、歴史・文化・伝統の充実度は日本国内においても抜きん出ています。また、本町の持つ大きな魅力の一つに大自然があります。町域の一部は高野龍神国定公園を構成しており、初夏の新緑や錦秋の彩りが美しい四季の変化に富んだ大自然に囲まれています。

こうした本町の特質は誇りうる町民の宝であり、古くから国民のこころのふるさととして親しまれてきました。そして、ユネスコによる世界遺産登録後は世界からも注目され、訪れる外国人観光客が急激に増えてきました。

来町される観光客をお迎えして、本町の良さ（歴史・文化・伝統・自然）を体験し、満喫していただき、「高野町に来て良かった、また来よう。」と、感動と満足をお土産にさせていただくことが最大の“おもてなし”です。

このためにも、新しい“着地型観光プログラム”の開発や、まちなみ景観整備を始めとする道路や各種施設の整備、行き届いた“観光案内パンフレット”や“掲示板”及び“ゆびナビ”、“音声ガイド”などの情報発信ツールなどの整備を進めます。

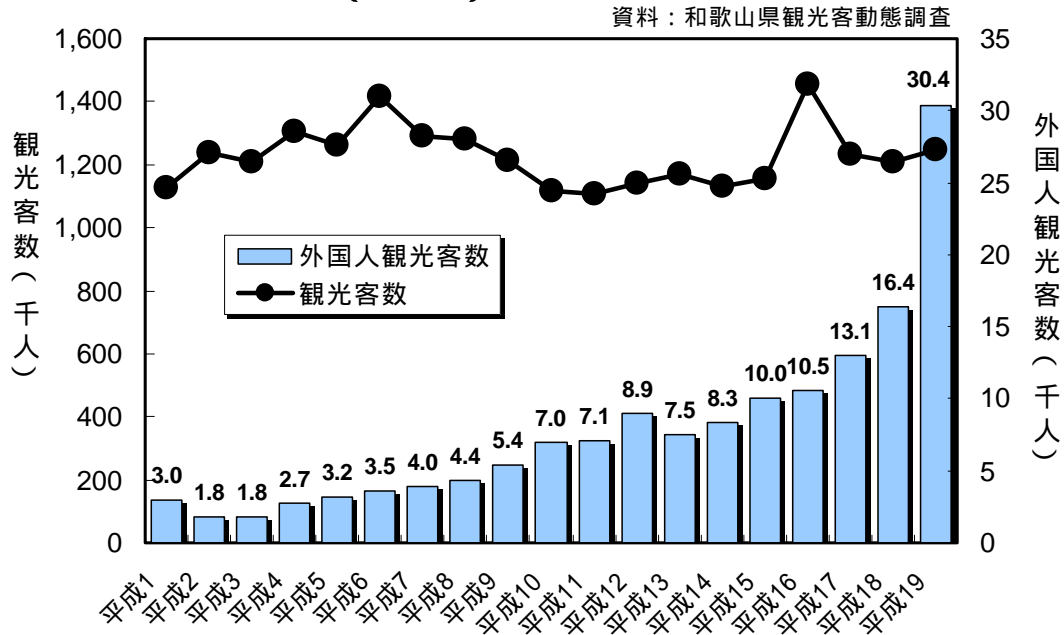
また、本町内の全産業（観光・農業・林業・商工業）の力を結集して魅力的な「高野ブランド」商品の開発を進めます。こうした地道な活動が交流人口増大につながります。

私たちは、こうした国内外から本町を訪れる観光客との交流を通して地域の価値を見つめ直し、さらには地域内での交流により地域のあり方を考え、これらの価値を保存し、発展させながら活力あるまちづくりを進める必要があります。

[国際化への環境整備]

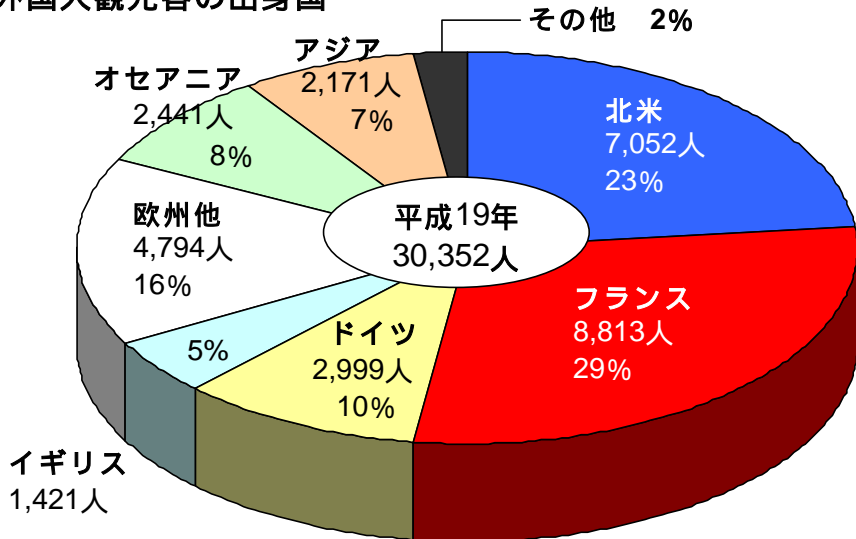
本町を訪問される観光客数は、年間約 120 万人前後で推移していますが、特に外国人観光客は世界遺産登録年の平成 16(2004)年以降急激に増加しています。

外国人観光客数の推移（高野町）



この増加が著しい外国人客の出身国を見ると、フランスを始めドイツ、イギリスなど、ヨーロッパからの観光客が 60% を占めています。北米、豪州を加えると、約 90% が欧米系となっています。

外国人観光客の出身国



資料：和歌山県観光客動態調査

平成 20 (2008) 年 1 月、国土交通省から訪日外国人観光客 (インバウンダー) に対する「おもてなしのモデル地域」として、北海道のニセコ町とともに高野町が選定されました。急激に外国人客が増加しつつある本町は、各方面の協力を得て 5 ヶ国語対応の音声ガイドの設置と貸し出しや、パンフレットを作成して対応していますが、他所を参考に国際化に対応した施策をさらに進めていかなければなりません。町ではおもてなし (ホスピタリティー) の精神が根底にあるまちづくりをめざし、国際化に対応できる人材の育成も含めて受け入れ態勢と環境整備を進める必要があります。

[歴史友好交流]

真言宗の開祖弘法大師空海は、今の香川県善通寺市にて宝亀 5 (774) 年 6 月 15 日御誕生になり、延暦 23 (804) 年、31 歳のとき唐に渡り研鑽を積まれた後、2 年後の大同元 (806) 年帰朝され、真言宗最初の根本道場として善通寺を創建されました。こうしたご縁から、高野町は平成 2 (1990) 年 7 月 27 日、善通寺市と「歴史友好都市」関係を結びました。そして総本山善通寺の創建 1200 年に当たる平成 19 (2007) 年、お祝いの法要に高野町も参加し、交流を深めてきました。

また、この歴史友好都市である善通寺市とは、中学生同士がお互いの地域を訪れて歴史や文化の重みに触れる体験を通じた文化交流を行っています。本町では未来の担い手である子どもたちが、交流体験を通して正しい町の歴史、文化、伝統を学び、誇りを持って育てて欲しいと願っており、今後も積極的に支援していきます。

また、イタリア・ペルージャにある標高 1,300m の高地に位置するアッシジ市は、米国・サンフランシスコの地名の語源ともなっているフランチェスコ教団を創設した聖フランチェスコの生誕の地として知られており、カトリック教会の巡礼地で世界遺産に登録されています。

本町ではこの「高地にある聖地」という環境の似ているアッシジ市との交流を深め、活力あるまちづくりにつなげていきます。

[地域交流]

高野山のたどってきた歴史や育まれてきた文化・伝統は、周辺地域とは無関係に時を重ねてきた訳ではなく、明治時代までは高野山を中心とした一大文化経済圏があり、共に発展してきた経緯があります。こうした高野山の歴史は、高野町のみならず周辺地域共有の歴史であり、みんなで学習し高野山の精神を守り伝える気持ちを持つことは非常に大切なことです。そのためには、地域の人々がこの高野町を大切に思い、歴史を学び、高野町とは何かを知ることから始める必要が

あります。

伊都橋本青少年団体連絡協議会では年に一度、高野参詣の表参道であった高野山町石道をたどり、往時の参詣者の気持ちに思いを馳せつつ、地域の歴史を体感し、同時に健康の増進を図りながら活力ある地域づくりを推進することを目的に、慈尊院（九度山町）から壇上伽藍までの約 20km の道のりを歩く「高野山参詣登山」を開催しています。この催しは平成 20 年度で 25 回目を数え、毎年 600 人程度の参加者があります。参加者の半数は県外の人で、繰り返し参加する人も多く人気のある交流会となっています。

また、既に前章で触れた「子ども農山漁村交流プロジェクト」による教育活動を積極的に支援し、交流の輪を拡げていきます。

一方、こうした歴史や文化をベースとした“地域を知る”交流とは趣の異なる交流事業として、以下に示す様々なスポーツ交流事業などがあります。これらは、高野山の新たな魅力のひとつであり、高野山という地での開催は参加者にとって高野山を知る機会となり、交流を通して思い出に残り、潜在的な高野ファンを増やすことにつながります。

- ・ 高野山旗学童軟式野球選手権大会

既に 13 回（平成 20 年）を数え、西日本はもとより、関東甲信越地区からも参加があり、大きな学童野球大会に育ちつつあります。

- ・ 高野山親善ゲートボール大会

近畿各府県より多くの参加があり、既に 12 回（平成 20 年）を数えます。

- ・ 世界遺産高野山ツーデーマーチ

他府県より多くの参加者があり、森林ウォーキングを楽しみます。

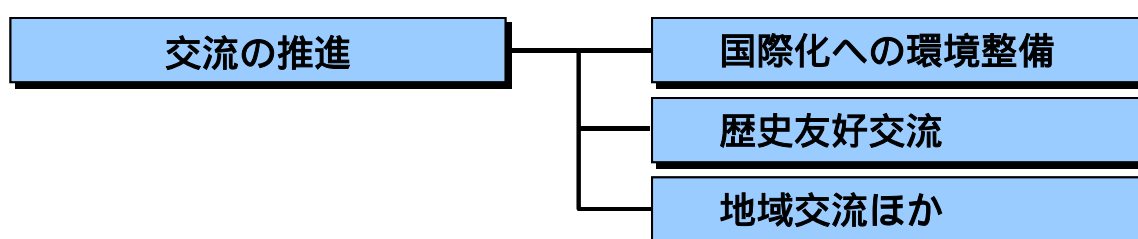
- ・ ヴェトロモンターニャ高野山

高野山とクラシックカーの意外な取り合わせですが、既に 17 回（平成 20 年）を数え、恒例行事となっています。

基本方針

おもてなしの気持ちあふれるあたたかいまちづくりを進め、国内外の人々と積極的に交流する機会を増やし、活力のあるまちづくりへとつなげていきます。また、こうした交流を通じて高野町の明日を担う人材を育成していきます。

施策体系



基本施策

国際化への環境整備

- ・ 本町のもつ魅力を最大限活用して質の高い情報を発信し、国内外の観光客誘致を活発化し交流人口を増やします。
- ・ 今後ますます外国人観光客の増加が予想されることから、国際化に対応できる人材の育成に努めます。
- ・ 外国人観光客に快適かつ満足度の高い滞在をしてもらえるよう、観光情報やパンフレット、看板など情報環境整備を進めます。

歴史友好交流

- ・ 弘法大師空海ゆかりの地と交流を深め、連携することにより高野山の価値を高めていきます。
- ・ 歴史友好都市である香川県善通寺市の中学生と、本町の中学生による文化交流を支援し、郷土を見直し愛する子どもたちを育てます。
- ・ 本町と環境の似ているイタリア・アッシジ市との国際交流を進め、高野山の世界的価値を高めていきます。

歴史友好交流

- ・ 高野山参詣登山
- ・ 子ども農山漁村交流プロジェクト
- ・ そのほかスポーツ交流（高野山旗学童軟式野球選手権大会、高野山親善ゲートボール大会、世界遺産高野山ツーデーマーチ、ヴェトロモンターニャ高野山など）

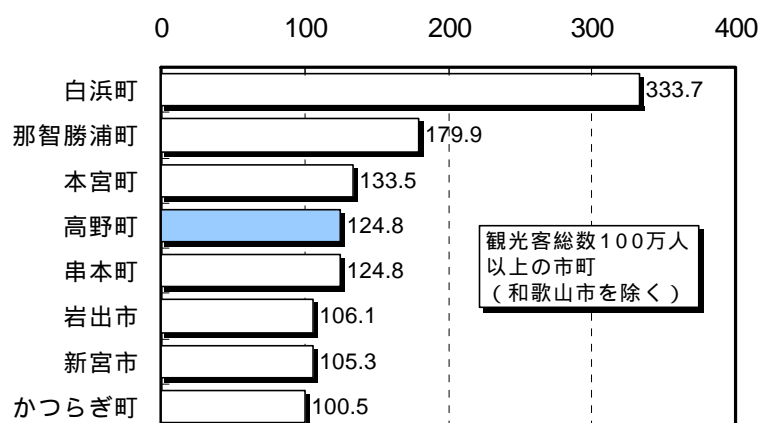
町ではこれらの交流を積極的に PR、支援し、より大きな輪に成長するよう仕掛けていきます。

第2節 高野町の魅力発信

現況と課題

本町には毎年約120～130万人の観光客が訪れます。平成19(2007)年度の和歌山市を除く各市町村別(旧市町村)観光客数を見ると、本町は第4位です。

県内各市町の観光客総数(万人)



資料:平成19年和歌山県観光客動態調査

これほど多くの観光客が本町を訪れる理由は、言うまでも無く、1200年の歴史、文化、伝統が今も息づいている真言宗の聖地高野山と、町域の一部が高野龍神国定公園に指定されている、緑豊かな美しい大自然とが融合した「文化的景観」の魅力がここにあるからです。私たちはこの魅力ある宝を大事に生かし、磨きをかけ、新たな魅力や価値を付加して世の中に本町の魅力を絶えず発信していく必要があります。

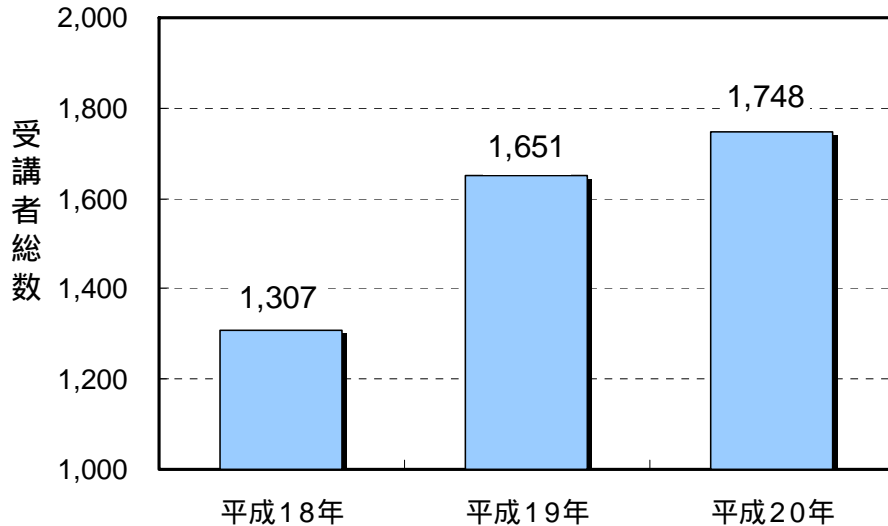
さらにいえば、高野山のみならず高野山を支え、共に歩んできた周辺地域に残る文化・伝統・風習、及びその文化的景観や自然環境を一体のものとして捉え、知ることによって価値ある本町の魅力の再発見につながり、高野町の魅力の幅が広がります。このため本町では、高野山大学の協力による高野山を知るための「高野山学」や、県内外の各方面の協力のもと、地域を考えまちづくりに生かす「高野山創造学」の講座を開講しています。

私たちはこのような地域資源の掘り起こし活動と連携し、高野町魅力を内外に向けて発信し、交流人口の増加につなげていく必要があります。

「高野山学」の受講者を地区別に見ると、和歌山県外から四割の方々が受講されており、近隣の近畿各府県のみならず、遠く関東、四国、九州からも参加頂き、多くの方から支持されている講座となっています。

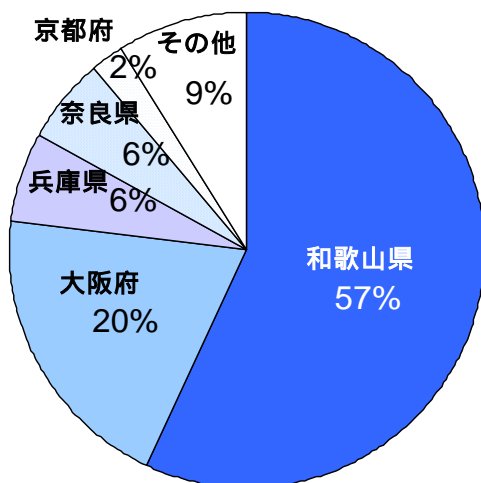
高野山学受講者数推移

資料：高野山学運営委員会

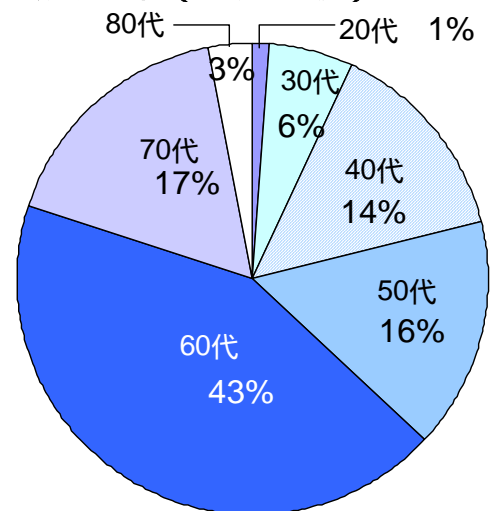


また、年齢別に見ると60代が43%と最も多く、50～70代の熟年の方が3/4を占めています。

地区別受講者（平成20年度）



年齢別受講者（平成20年度）

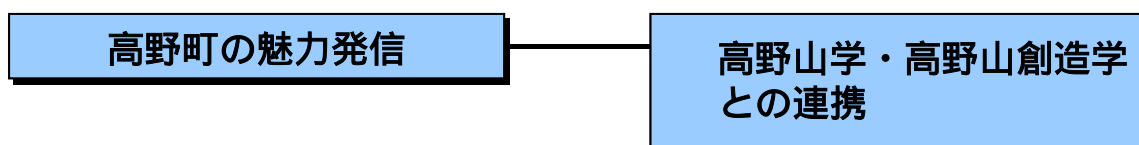


高野町ならではのこの講座は全国的にもユニークであり、交流の拡大につながっており、町では今後も開催を継続していきます。

基本方針

「聖地高野山」の根底に流れる精神の真髓を学び・守り・伝える「高野山学」や「高野山創造学」などのふるさと教育の場を通じ、高野町の魅力の再発見及び情報発信へとつなぎ、交流人口増大策に生かしていきます。

施策体系



基本施策

高野山学・高野山創造学との連携

- ・ 高野山の精神を守り伝える高野山学・高野山創造学のふるさと教育と連携し、高野町の魅力を発信しつつ、交流人口の拡大に生かします。
- ・ 高野町再生を目的に、「高野山とは何か」を明らかにしつつ、町民の生活を通して高野町の在りようを考え、まちづくりにつなげていきます。

